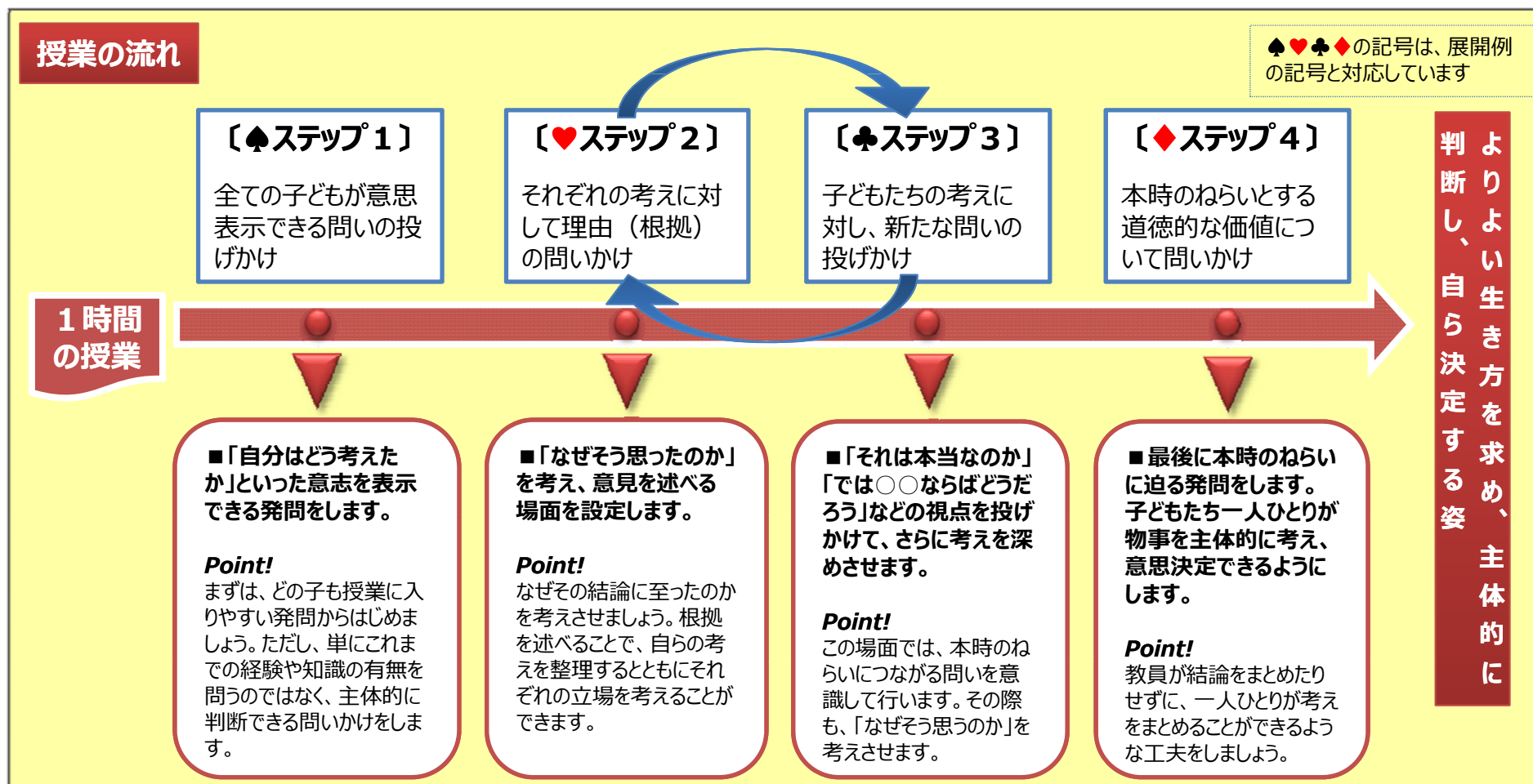


『「大切なところ」を見つめ直して』を活用した発展的な授業展開例

児童・生徒が道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を養うために、より多様な価値観や意見を出し合いながら、自分の心を見つめ直し、意思決定ができる力を養うことができるような工夫を取り入れた授業展開例です。

【ねらい】

- 資料をもとに、物事を異なる立場でとらえたり批判的に考えたりすることを通して、ねらいとする道徳的な価値について考えを深める。
- 根拠に基づいた考えをもつことで、将来出会うであろう日常の場面や状況で主体的に判断し行動できる力を養う。



授業展開イメージ

※例として、小学校5・6年用 思いやる〈資料名「背中」(p12)〉の授業展開イメージを示しています。
あくまでも展開の一例であり、実施にあたっては、発問や予想される反応、授業展開について十分な検討が必要です。

2

〔♠ステップ1〕

全ての子どもが意思表示できる問いの投げかけ

T「ぼくの行った行動は全く正しかったと思いますか？
まちがっていたと思いますか？」

S1「まちがっていたと思う」

T「みんなそう思いますか？」

S2「正しかったのでは？」

S3「まちがっていたとも言えないかなあ…」

：

まず、みんなが考え答えることのできる問いからはじめます

たとえ少数意見であっても言える雰囲気を作ることが大切です

〔♣ステップ3〕

子どもたちの考えに対し、新たな問いの投げかけ

T「ぼくの行動はまちがっていたとは言えないとしても、ぼくは顔をかくしましたね。なぜ顔をかくしたのでしょうか？」

S1「はずかしかったのでは」

T「どうしてはずかしいのかな？」

：

S2「堂々としていればよかった」

T「堂々としていてよかったか？」

S3「別にかっこ悪いことではないと思う…」

T「じゃあ、自分の家族がやっていたらどうでしょう？」

S4「やっぱりちょっとかっこ悪いな」

S5「ゆずれるならゆずったほうがいいな」

：

T「松葉づえをついた男性は、うそをついていることになってと思いますが、どう思いますか？うそをつくことはいいのでしょうか？」

S1「うそをつくのはよくないと思う」

S2「うそは人をだましていることになるから」

T「みんなそう思いますか？」

S3「この場合はうそをついてもいいと思う」

T「どうして？」

S4「いろいろと悪いそがあると思う」

T「いいうそってどんなうそですか？」

S5「相手のためを思ってつくうそはいいうそだと思う…」

T「みんなはどう考えますか？」

：

子どもたちの根拠を示した発言に対して、新たな問いかけにより深めます

できるだけ子どもたちが評価しやすい、わかりやすい問いかけをします

ステップ4の本時のねらいにつながる発問を工夫します

「それは本当かどうか」考える問いかけを行います

〔♥ステップ2〕

それぞれの考えに対して理由（根拠）の問いかけ

T「それぞれ、なぜそう思ったのですか？」

S1「困っている人がいればゆずるべきだと思う」

S2「必ずゆずらないといけない決まりはないから…」

S3「ぼくには宿題をするという座る理由があったから」

：

T「なるほど、じゃあ他の人の立場も考えてみましょう」

松葉づえをついた男性はどうでしょう？理由も考えましょう」

S1「困っている人を助けようとした行動だから正しかった」

S2「まちがっていたと思う。松葉づえの人はゆずられる側の人だから…」

T「じゃあ、この母親はどうですか？」

S3「ゆずらただけなので、まちがっていない」

S4「まちがっていたかも…優先座席に行くべきだった」

T「赤ちゃんはどうですか？赤ちゃんが原因！？」

S5「赤ちゃんは悪くない」

T「どうしてそう言えるの？」

S5「赤ちゃんは自分で判断できないから…」

T「なるほど、おもしろい視点ですね」

：

なぜ自分がそう思ったのかを考え、理由や根拠を明らかにします

立場を変えて考えてみたり相手の立場に立って考えてみることで、様々な角度からものを考えます

それぞれの発言に対して、肯定的な評価を行います



〔◆ステップ4〕

本時のねらいとする道徳的な価値について問いかけ

T「相手のためを思って行動するということは、どういうことだと思いますか？考えたことを書きましょう」

：

T「自分が考えたことをグループで出し合ってみましょう。」

指導者による道徳的価値の押し付けになってはいけません

✓ 指導にあたって 効果的な授業を展開するために…

- ◆ 事象をそのまま受け入れるのではなく、それぞれの意義を考えさせることをめざします。つまり、なぜそうなのかを自分で考え、そのことを他者に説明することが大切です。
- ◆ それぞれの問いに正解はありません。将来出会うであろう様々な場面や状況で、主体的に判断し行動できる子どもを育てることが目的です。
- ◆ この資料は授業展開の例を示しています。児童・生徒の実態に応じて予想される反応を考え、その反応に対してどのような問いかけを行うのか十分に想定しておくことが大切です。
- ◆ 特定の児童・生徒との一問一答になってはいけません。ポイントとなる発問では個人で考える時間を設定し、全体で深める工夫を行いましょう。